



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから
出会いを創造し活性化しよう

プログラム

- 本日
会員卓話「年男おおいに語る①」
高田 潔君・松川一夫君・明澤正樹君
- 次週予定
会員卓話「年男おおいに語る②」
越野俊興君・道 重幸君・宮尾幸之助君

ご夫人誕生日

1月27日 中川 豊美
1月29日 鈴木 正枝

No. 2311

第26回 1月23日



前
例
会

会員総数	51名
出免会員	4名
欠席会員	13名
出席率	72.34%

前
々
会

第23回	12月19日
欠席会員	16名
メイクアップ	3名
修正出席率	72.34%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

📝 会長報告

- 先週は新年夜間例会でしたので、実質的な例会は本日からです。今日は地域の在り方を市長の生の声でお聞きします。ロータリークラブとしてどのような地域貢献が出来るか、考える機会となればとを考えます。
- 第7回定例理事会、第4回クラブ協議会を1月8日に開催しました。11月～12月の収支活動報告、1月のプログラムの承認を行ないました。
- 韓国論山クラブ訪問日程が国際奉仕委員長の報告どおり承認、後日会員に詳細を報告します。

📁 幹事報告

- 1) 国際ロータリー第2510地区ガバナー事務所より年齢別人数の問い合わせがきております。活動計画書通り報告いたしました。
- 2) 国際ロータリー第2510地区ローターアクト委員会より地区委員会の案内が来ておりましたが、留萌のアクトクラブは休会中との連絡を致しました。
- 3) 砂川RCより2月の例会案内が来ております。
- 4) 次回例会より下半期・年間の請求書を発行いたします。お早めに納入をお願いします。
- 5) ロータリーの友1月号が届きました。本日配布いたします。
- 6) ロータリー米山記念奨学会より、先月入金しました寄付金の領収書が届いております。

ゲスト

留萌市長 高橋 定敏様

委員会報告

前年度幹事 対馬会員

2006年～07年度の活動報告書が完成いたしました。内容は2回ほど読みましたので大丈夫だと思いますが、万が一大きな間違いがあった場合は私の方までご一報下さい。なお、細かいミスはロータリーの友情でご容赦いただきたいと思います。これにて幹事の仕事をすべて終了しました。ありがとうございました。

3分間情報

会員研修委員会 河部副委員長
退会防止について思う

ロータリー精神を共に分かち合うことは、われわれロータリアンの使命であります。また、ロータリーの拡大・増強はロータリーの生けるしるしであり、ロータリー始まって以来常に直面している問題であります。

しかしながら、会員数が減少している最近の状況にかんがみ、「会員増強はまず退会防止から」とされ、退会防止はあらゆるクラブにとって重要な問題となっています。

クラブが現存会員の退会を防止できず、また新会員を入会させ、その退会を防止することができなければ、クラブは存続することはできません。

これは極最近のことですが、クラブを退会したいとか、或いは既に退会届を用意しているという声を耳にします、近年良くあることであります。

そこで、大いに反省すると同時に、また新しい気持ちで望みたいと思い、この項を提供する次第です。

退会の理由として考えられることは

- ①病気 ②死亡 ③老齢のため ④家庭内の問題
- ⑤仕事上の問題(役職の定年、転勤)
- ⑥経済的な理由(金銭的負担の問題) ⑦クラ

ブ内の問題(親睦の欠如、会員自身の認識不足、会員間のトラブル) ⑧ロータリー情報の欠如

ところで、欠席がちな会員がいるということが少々気になりますが、その事情をはっきりさせると同時に、以下述べることを徹底させる必要があると考えます。

①ロータリーは単なる親睦団体ではないと言うことを徹底させること。

②しかし、親睦は奉仕の第一歩であること。会員間のフェローシップ(これは単なる親睦ではない)を更に徹底させる意味で、お互いの話し合いを蜜にするために次のことを図る。

- ・わがクラブの良さを更に推進すること。
- ・例会での座席をカードを引いて決めるなどして絶えず変更し、会員同志のふれあいとコミュニケーションを出来るだけ多くとれるような場作りに努力する。

・informal meetingを出来るだけ開き、ロータリー情報を更に徹底させる。

そして、結局は、会員一人一人がロータリー哲学を早く自分のものにするにある。

こうして会員の資質が向上しますと、更に善意は高められ、有益な奉仕活動を行いやすい状態になります。これがクラブの魅力と求心力を強めることになり、ロータリーのイメージアップにつながります。

その結果、会員自身の充実感・満足感を高め、ひいては社会的信用度を増すことになり、一方、これがロータリーに入会して会員の一人になりたいという動機づけにつながることであり、ここに会員増強の原点があると思うわけでありませす。(『ロータリー探求』から)

ニコニコBOX

- ・前年度報告書ができました ご協力ありがとうございました 対馬会員
- ・前年度活動報告書本日配布しました 対馬幹事さんご苦勞様でした 中川会員
- ・新聞に載りました 申橋会員
- ・写真撮影ご協力ありがとうございました

澤田会員

- ・新年夜間例会写真とDVDをいただきました

行徳会員

- ・写真いただきました 渡部、関野、松田会員

- ・会報に写真載りました 西谷(恭)会員

- ・良い事がありました 齋藤、武井会員

前 回 22,000円

今 回 690,000円

累 計 712,000円

📖 プログラム・・・・・・・・

「留萌の未来」

留萌市長 高橋 定敏 様



本日は新春にあたり留萌の未来ということでお話をして下さいとの事でしたので、少しのお時間をいただき、話させていただきます。

むかし、この留萌の未来、北海道の未来、そして日本の未来は21世紀を迎えるころはバラ色の時代になるといわれていましたが、なかなかそうはなりません。地方分権の時代と言われ、自主自立の世界、アメリカの自由主義、市場主義、いまでは医療の世界までもが市場原理に基づくという時代になってしまいました。しかし、私どもはこれを乗り切るために、ロータリーにもあるように、分かち合いの心を大切に、絆を深めていかなければなりません。日本人としての絆、思いやりの心を持って大和心大和魂の精神を未来に伝えていかなければなりません。昨今の経済状況も大変な時代が続いています。本年は明るい年であるように願っておりますが、去年は80年続いた野口豆腐屋さんが歴史を閉じました。今年は90年続いたフカセさんも留萌での店を閉めるということです。企業として30年、60年、90年そして100年以上という流れで、なかなか30年以上続けていくのは大変だと聞いています。

実は私は企業に籍を置いたのが昭和46年でございまして、大阪の大川家具という当時大阪で5本の指に入る問屋で昭和46年で、すでに50～60億円の売上を上げていました。その企業が昨年50周年を迎えたとの連絡がありました。家具業界の企業として50周年続いたという大変な事で、日本の家具業界というのは、北海道のニトリさん、実は昭和46年に私が北海道に来た時に北28条あたりの新道近くにニトリ家具という小売の店があったのを覚えています、そのニトリさんがある意味日本の家具業界を制覇してしまいました。日本全国の家具屋さんはそのほとんどが輸入家具に押され壊滅状態、その影響を受けたのが旭川の家具で、私は昭和47年頃もちろん家具屋の社員としてキタジマさんだとか、長谷川木工などの幾つかの家具屋さんにお邪魔したわけですが、殆ど全部が無くなりました。旭川の家具屋さんで現在残っているのはインテリアセンターという中道さんという所で、今はイスのデザインに力を入れて生き残っています。北海道の素材はもちろんですが、デザインで打ち勝とうと頑張っています。デザイン性を活かそうと今ドイツに店舗を構えています。しかしデザイン性が高く、価格も高いですから、すべてが上手く行っている訳ではありませんが、他の家具屋さんからすると特色ある技術、レベルの高いデザイン性の高いことで、会社を維持しています。そこで私のお世話になっていた会社はと言うと、九州の大川でダンスを作ってきた会社ですが、嫁入りダンスも全国でそんなに必要としなくなってきていましたので、私もあまり気にかけていませんでした。ここにきて50周年を迎えたとの連絡をいただき、この50年、不況時はどうしたかという事を聞いたところ、やはりそれはアイデアでした。家具の中でダンスに固執しているともうやっていけないと、ベッドの生産に切り替え、中国、韓国で合弁会社を作ってベッドを生産し、最初の不況を乗り切ったそうです。その後の不況は10年前ですが、その時は、ベッドのそうでしたが、健康をテーマとしていましたので、イスの背もたれに注目したそうです。人間の背中には色々な形があります

ので、その背中に合ったイスの背もたれを考えたそうです。それが爆発的に売れているそうです。フジサンケイグループの出しているディノスという通販雑誌にも載っているようで、背もたれに二枚のボードが付いたイスだそうです。それを中国大連で生産し、高級品は九州福岡で作っているそうです。企業はアイデアで不況を乗り切っています。北海道においても、物作りが盛んです。物作りとアイデアでこの不況を乗り切っていけたらと思います。

この留萌も水産加工業でいえば、昔カマボコ工場があり、ある時から数の子生産に替わったという、ある意味歴史の流れの背景の中でもう一度物作りという、物にしっかり目を向けていかなければならないと思います。私も市長に就任して2年目になりますが、1年目は市の職員の意識改革、そして留萌の未来を考える、未来に責任を持つ、行政としてはやはり市民とともに汗をかいて信頼を得るのも大切であるが、市民に政策を提案し、市民の将来に夢を持てるような将来に繋がるような政策を打ち出していくのも大切な仕事だと思っています。政策立案能力を高めることによって、経済界や市民の皆さんとの信頼関係が生まれるという思いもありましたが、私自身、留萌の中では「うまいよもい市」をやっている職員が朝4時5時から用意して、当日のイベントの用意にウニのつかみ取りのためのウニを漁師の方と一緒に海に出て頑張っている職員を見ることが出来ました。今年も市民の皆様の協力をいただき、市の観光PRの目玉としてやって行きたいと思っています。この不況の時代、SL運行やトライアスロンも中止となってしまいました。しかし次の生産性にしっかりつなげていく為には一度立ち止まって考えて見ることも大切です。私自身も一度立ち止まり、続けていくものを考え、市の職員と同じ価値観を共有して進めて行く事が大切と思いました。正直、私もそうでしたが、国の予算、道の予算を取る事だけが仕事であって、市民の皆さんからご指摘を受けますけれど、市は市民に目が向いていないと言われ、行政としては市民の安心安全に対する能力を発揮してほしいと

ご指摘も受けたので、行政マンとしては政策的にも明るい方向性をしっかり示せるような人材育成をしていかなければと思っています。まずは留萌の将来に向けて一番大切なのは職員の意識改革だと思います。市職員は333名でしたが、280名を切るようになり、一人ひとり対話して留萌市職員全員が留萌の未来への責任を持つようにしなければなりません。

今現在留萌は支庁制度の問題で、今月22日に山本副知事が留萌に説明しに来ます。この制度は明治43年に増毛から留萌に支庁が移り始まりましたが、この年は留萌港の築港が始まった年でもあります。明治22年ころに五十嵐億太郎さんの手によって帝国議会に要請が出され、明治43年に実を結び、昨年度は開港70周年を迎えました。留萌地域の未来はどうして港を築港しなければならなかったのか、しっかり意識しなければなりません。当時、明治43年頃は沿岸のウラジオストック、ハバロスク、特にウラジオストックには約2900人もの日本人が住んでいました。敦賀から定期航路も出ていました。また小樽や函館からも物資を運ぶ船がウラジオストックへと入っていました。そこでは日本人が事業をやっており、明治大正にはいり、敦賀よりより近い北海道に、北海道に眠る資源を利用して極東に日本の領地の拡大を計る。そこに物資を送る港として留萌港を選んだ、これが日本としてのテーマだったと思います。留萌港の未来を考える時、このウラジオストックがどの様な街になっていくのかを考えなければなりません。初めの頃のプーチン政権は大変苦労しましたが、オイルマネーが入り、年金をしっかりと払える国になり、逆にモスクワと同じような都市を極東にも作ろうと考えています。ウラジオストックからモスクワまでの、皆さんご存じのシベリア鉄道これの新幹線化も課題としてあげられています。しかしソビエトには新幹線技術が無く、これを日本に求めています。それらは、北方四島など色々な問題がありますが、北方領土問題の解決策、平和条約の締結と経済支援の中にこのシベリア鉄道の新幹線化が入っています。将来20年、30年後には200万300万人都市となって

いると思います。しかしそれだけ大きな都市になると食糧が間に合うかどうか、ロシアの気候や今の状況ではなかなか難しいと思われます。食糧などは北海道から持って行くことになるだろうし、寒地住宅などの技術も生きてきます。そもそもロシアは集合住宅であり、あまり1戸立てはありませんでした。留萌港としてロシアサハリンではなく、ロシア極東沿岸に目を向け、やって行きたいと思います。サハリンとは一昨年経済交流を行いました、今後国同士の交流が進む中で、より一層港が重要視されると思います。

それでは留萌港にどのような食糧が集められるか、道北を中心とした寒地技術を推し進めていけるのかを検証しなければなりません。現在北海道では東南アジア特に中国、台湾などに農水産物を輸出する専門組織を立ち上げようとしています。私共と致しましても、もう一度留萌、旭川の経済界がどういう責任を果たせるのかを考えていかなければなりません。

留萌の未来を語るという事で言いますと、まず留萌市の職員の意識改革、そして政策能力を高め、市民の信頼を得るという事に生まれ変わる事。留萌港の利活用を考えるという事で、山口外一さんから寄贈された世界に一つのデザイ

ン灯台からゴールデンビーチ、礼受牧場そして佐賀番屋を一体と考え、癒しの空間としたいと思います。飛鳥IIが留萌に寄港した時の乗客から何通かのお礼の手紙をいただきました。留萌港での出迎えが記憶に残っているとの事で、また機会があれば行きたいとの事でした。私としては港町留萌をテーマに掲げながらこの留萌の歴史を築いてきた物作り、そして仕事をしてきた職人を発掘しながら、ものづくり人づくりで次の世代の人々に伝えていきたいと思います。

現在財政状況が非常に厳しいといわれ、夕張市の暗いニュースが流れておりましたが、皆さん方も奉仕の精神でやっています。他の団体も奉仕活動を積極的に行なっております。市職員1人ひとりが経営者、オーナーシップという気持ちをもって政策を掲げ、頑張っていこうと思っています。市役所も一生懸命頑張ります。皆様のご協力もよろしくお願いします。



THE STRATEGIC PLAN

長期目標

今後の計画を整えるR1と財団

R1理事会は、国際ロータリーの使命、ビジョン、中核となる価値観、優先項目を構築する2007-10年度の長期計画を承認しました。

使命とビジョン

ロータリー・クラブの世界的連合体である国際ロータリーの使命は、世界に奉仕し、高い倫理基準を促進し、事業と専門職務および地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進することである。

国際ロータリーのビジョンは、世界理解、親善、平和を推進するための「超我の奉仕」に対するその献身が、あまねく認知されることである。

中核となる価値観

奉仕

親睦

多様性

高潔性

リーダーシップ

優先項目

- ・ マリオを模倣する
- ・ ロータリーに対する内外の認識と公共イメージを高める
- ・ 他者に奉仕するロータリーの能力の増大を図る
- ・ 質的にも量的にも会員組織を世界的に拡大する

- ・ ロータリー独特の職業奉仕への取り組みを強調する
- ・ 国際ロータリー内の指導的才能を最大限に活用し、育成する
- ・ 組織全体を通じて継続性と一貫性を保つために、長期計画の手順を完全に実施する

ロータリー財団は、今後10年の組織の指針となる未来の夢計画を策定しました。これには、以下の使命と優先事項が含まれます。

使命

ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることである。

優先事項

- ・ すべてのプログラムと運営を簡素化すること
- ・ プログラムの成果も内容も未来の夢計画に沿ったものにすること
- ・ 地区レベル、クラブ・レベルにおいてロータリー財団へより一層参加し、ロータリー財団を自分たちの財団であると自覚すること
- ・ プログラムの目標達成のための十分な資金と人材を提供すること
- ・ 未来の夢計画を支える効果的な方策を開発すること